みどりのまちづくり

公益財団法人河内長野市公園緑化協会

平成 26 年1月
Ｎｏ．１４１

写真：うっすら雪化粧をしたカンツバキ（寺ヶ池公園）

河内長野にマッチした緑化推進のために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
協働によるみどりづくり～美加の台でのチャレンジ～PART3 ・・・・ 4
いろいろな植物を知る －PART7 ハボタン－ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
公園でナラ枯れが発生しています ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
編集後記 ・・・ 9

河内長野にマッチした緑化推進のために

みなさん、新年あけましておめでとうございます。本年も、昨年と同様に、当協会に対しましてご支援、ご協力、ご意見のほどをよろしくお願いいたします。なお、年が改まりましても、私は、以前と同じように、この欄で相も変わらず、緑化植物等の育成と管理について述べさせていただきたく思いますので、お許しのほど、よろしくお願いいたします。

さて、当協会では、河内長野の地域性にマッチした緑化を推進するために、通常の都市公園緑地街路樹等の一般的で基本的な緑化管理手法に加えて、河内長野市域に特徴的な課題を考慮した独自の緑化管理技術を追求しています。すなわち、河内長野市域の緑化推進においては、大都市から波及した公園緑地街路樹等の緑化管理の一般的な方法に、河内長野市域に特有の諸要因を考慮した緑化管理方法を加えて推進する必要があり、そのことによって、河内長野らしく、地域に根ざした永続的な緑化推進が図り得ると考えるからです。

■河内長野の課題を考慮した独自の緑化管理技術

一般的技術		独自の技術		河内長野の技術
公園緑地街路樹等の一般的な緑化管理方法(都市部より波及してきたもの)	＋	河内長野市域に特徴的な緑化管理方法(公園緑化協会が独自に作成)	→	河内長野の地域性にマッチした緑化推進、並びに、市民の園芸、緑化への波及

そこで、河内長野に特有の諸要因について考えてみますと、一つには、河内長野市域における公園や緑地、街路樹等の設置場所が、都市部の公園や緑地、街路樹等の立地とはかなり異なる面が多いということがあげられます。

まず、都市部に比べて標高がかなり高いことに気付きます。河内長野市内の公園緑地等の標高はおよそ100メートルから300メートル程に位置し、大都市部との標高差が大きいうえ、市内に散在する公園緑地の間でも標高差が大きいといえます。また、構造物に囲まれた平地の公園、整備された道路や河川に接する緑地などとは異なり、河内長野では、公園緑地の周囲が田畑や畑であったり、森や林であったり、あるいは草地や斜面であったりなどというように、都市部の場合とは異なる例が多いのです。さらには、公園緑地の立地が山の尾根筋や斜面、谷筋、平地など、立地環境もさまざまで、細かいことをいえば、陽あたりや湿気、土壌の組成や水分など

にも差異が大きいといえます。したがって、植付けた緑化植物の生長が場所によって異なるという結果を招きやすいでしょうし、これらの要因は、生育障害の発生や病虫害の発生等にも影響するでしょう。というわけで、このような河内長野における公園緑地の立地環境が様々であることに対処した緑化推進が必要であると判断され、当協会としてはこれらの環境的課題を解決した緑化管理技術を作成する必要があるといえます。

2つ目の問題として、雑草、雑木との戦いという管理上の大きな問題に関するものです。先に述べましたように、河内長野における公園緑地の周囲には山や田畑、草地などが多く、公園緑地には、雑草、雑木、竹などの侵入がはなはだしいのです。雑草の除去に追われているというのが実情で、現在、年間2～4回ほどの除草管理を行なっていますが、この作業を軽減する方策を考えない限り、除草作業が永久に必要となってしまいます。コストも含めて、除草作業を簡素化する方法はないものかと、公園緑地を見ておりますと、よく茂ったサツキやヒラドの下にはほとんど雑草が生えていません。シャリンバイやウバメガシについても、場所により雑草の生えていない場合が見られました。そして、このことから考えられることは、緑化植物の生育を旺盛なものとして、葉を密に茂らせることによって、雑草の生長をかなりに抑制できるということです。植物で植物の生長を制御するというわけで、いわゆる植物生態学的な領域の課題です。市内の公園緑地等には実に多種類の緑化植物が植栽されていますが、その中で雑草の抑制に寄与している種類と、そうでない種類を選り分け、今後は雑草の抑制に効果のある種類を植付けるようにすることにより、目的の一部は解決すると考えられますので、協会ではこの選り分け作業に着手しています。なお、このような、植物で植物の生長を制御するといった場合、制御する側の植物は生長旺盛で永続的に生長するもの、言い換えれば土地に合った植物が好適でしょう。公園緑地に侵入してくる雑木類の中には、このような丈夫な植物、雑草より強い植物が多いと考えられますので、景観形成効果を考慮しながら、整枝や選定効果も確認して、緑化植物としての利用を図る必要があると考えられます。もちろん、近くの山野に自生する樹木類、以前に栽培利用されていた里山植物も同様です。というわけで、植物と植物の競争や共存という生態的課題を取り入れた緑化管理技術を確立することが2つ目の課題です。

そして、最後に考慮しなければならないのは経済的な問題です。協会では、先に述べました環境的課題と生態的課題について、低コスト化を前提に緑化管理技術を構築し、経済的課題の解決に努めていく予定です。

なお、ここに述べましたように、河内長野市域に特徴的な緑化管理技術の作成のためには、環境的課題、生態的課題、経済的課題を考慮しながら技術の深化を図らねばなりません。環境、生態、経済はいずれもエコと呼ばれるものですから、当協会が取り組む緑化管理技術を私はエコ緑化技術と呼んでいます。緑化植物としてこんなものがいいのでは、というようなご意見をお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

■公園緑化協会が取り組むエコ緑化技術

エコ緑化技術		環境的技術		生態的技術		経済的技術
河内長野市域に特徴的な緑化管理方法	⇦	公園緑地の立地環境にあわせた緑化植物の選定、管理	＋	緑化植物による雑草抑制、強健な緑化植物の選定	＋	環境的技術や生態的技術による緑化管理で低コスト化

（公園緑化協会理事長　大江正温）

協働によるみどりづくり～美加の台でのチャレンジ～PART3

昨年3月 23 日の 120 本のサクラの植樹、そして6月1日の草刈り講習会に引き続き、12 月7日に、美加の台第 10 緑地の管理用の階段づくりを協働で行いました。

▲階段づくりの工程の説明を受ける参加者

この階段づくりは、美加の台植樹委員会と森林組合、NPO 法人森林ボランティアトモロス、市、本協会の5者による定例会議で実施が確認されている今年3月の2回目の植樹（ヒラドツツジ、アジサイなどを予定）の準備作業として行うものです。昨年のサクラの植樹前に行った緑地の中央やや西寄り斜面に設置した間伐材を活用した階段づくりの経験を活かし、今回の設置位置は、緑地の管理用出入り口扉と灌水用の水道栓に近いと

ころで設置したものです。また、前回設置の階段は、段差が大きく、日常管理の中心である美加の台植樹委員会メンバーの年齢を考えると、頻繁に使用するものでなくても、将来的にはサクラの花見等の散策用の階段通路としても機能することも考え併せて、階段づくりの主導的役割を担っていただいたトモロスの方で、安全性を重視した設計をしていただきました。

▲参加者全員で力を合わせて作業を進めました

階段づくり当日は、心配した天候もまずまずで、午前9時の集合後、まずは事故防止のため、全員で軽い体操をして体をほぐしたあと、トモロスのメンバーを班長とした5班のチームを作り作業を開始しました。そして、階段づくりは順調に進み、午前中で全体としての作業を終えました。なお、今回は、実験的に踏み面の安定と雑草の予防のため、一部の階段に土系の舗装を施しました。この効果が実証されれば、既設の階段を含め、すべての階段を舗装したいと考えています。

最後に、美加の台植樹委員会のメンバーが持ち寄り、緑地最上部に植えているツツジとアジサイの生育状況についてお知らせします。それぞれ順調に生育しているものの、今年の植樹用の苗としてはまだ活用できないと思われます（活用できるのはあと2～3年後）ので、今年の分については、購入苗で対応することとなります。今回の階段づくりでは、トモロスのみなさんに活躍いただきましたが、次回の植樹では当協会が主導できるようにと考えています。

（公園緑化協会常務理事　山田彰男）

▲5つの階段が完成しました

いろいろな植物を知る －PART7 ハボタン－

新年あけましておめでとうございます。本年もこの「いろいろな植物を知る」をよろしくお願いいたします。さて、今回で7回目を迎える「いろいろな植物を知る」。寺ヶ池公園には数多くの植物があり、書くネタがつきることはありませんが、逆に毎回何について書こうか迷ってしまいます。そこで、いつもは樹木を紹介することが多いのですが、今回はお正月ということもあり、それにふさわしい季節の草花を紹介したいと思います。

今回紹介するのは、10 月頃になるとスーパーやホームセンターで販売されるようになり、正月を迎えるにあたって花壇材料や寄せ植え材料として玄関先を彩る「ハボタン」です。冬花壇の主人公とも言えるハボタンは、アブラナ科アブラナ属の多年草で、夏に種をまいて育て、寒くなるとともに色づく葉を冬から春にかけて観賞する植物で、園芸上は一年草として扱われることが多いです。葉が重なりあう姿からボタンの花を連想してこの名前があります。原種はキャベツの仲間で葉が結球しないケールから品種改良され、江戸時代に初めは食用としてヨーロッパから伝わり、後に観賞用として改良されました。

▲正月飾りとして彩りを添えるハボタン（上：切り葉ハボタン、下：丸葉ハボタン）

ハボタンは、日本を中心に品種改良が進み、江戸時代から東京で改良されてきた丸葉系、明治時代中期に名古屋地方で縮緬系ケールを交配して改良された縮緬系、戦後大阪地方でつくり出された大阪丸葉系、1970 年代に発表された切り葉系、さらにメキャベツと交配してつくられた系統のほか、葉に光沢があるものなど様々な種類があります。

かつては大きな株を花壇や鉢に植えつけて楽しむのが主流でしたが、矮化剤の利用や品種改良により小型化

が進み、3号程度のビニールポットで小さく仕立てられた「ミニハボタン」が人気となっています。3月下旬頃から4月にかけて、暖かくなるにつれ株の中心の茎が伸び、とう立ちするようになります。それをそのままにしておくと黄色い花が咲き、咲き終わったあとは一年草扱いでほかの植物と入れ替えてしまうことが多いのですが、株元近くで切り戻して、「踊りハボタン」として仕立てる楽しみもあります。

育て方のポイントとしては、日光が十分当たるところに置くと発色がよくなります。水やりは、表土が白っぽく乾いたらたっぷりと与えるようにし、肥料は植えつけた時に緩効性化成肥料を元肥として施しておけば追肥の必要はありません。病虫害は、秋の気温が高い時期にモンシロチョウの幼虫が出やすいので、見つけしだい取り除きます。冬は病虫害が出にくいが、春になるとアブラムシがつきやすいので浸透移行性の薬剤（オルトラン粒剤など）で防除します。

寺ヶ池公園には、花づくりボランティア「花の精」にお世話いただいている花壇に植えられていますので、公園に来られた際はぜひご覧いただければと思います。

（公園緑化協会　内本博樹）

公園でナラ枯れが発生しています

昨年（平成 25 年）の夏に、烏帽子形公園でナラ枯れが確認されました。

烏帽子形公園は、河内長野市の上田町から喜多町にかけて広がる大きい公園です。国道 310 号沿いの河内長野郵便局から西へ徒歩 5 分ほどの所に烏帽子形八幡神社があり、その神社の裏手の小高い丘が烏帽子形公園です。烏帽子形公園には、広場や児童用の遊具もありますが、そのほとんどの区域は樹木に覆われて樹林地になっています。平成 21 年に実施された植生調査によると、烏帽子形公園の樹林地の主要な樹種は、コナラ、アラカシ、コジイ、ヒノキ、モウソウチクでした。

▲烏帽子形公園で発見されたナラ枯れの様子

ナラ枯れは、近年注目されている樹木の病気です。ナラ枯れの被害は、北陸地方などの日本

▲コナラ類に侵入するカシノナガキクイムシ。体長5ミリほどで、この虫が持つ病原菌がナラ枯れの原因となります

海側で早くから広がっており、大阪府内では、平成 21 年に高槻で確認されて以後、枚方、箕面、交野などでも被害が発生しています。この病気の被害を受けている樹木の種類は、ミズナラ、コナラ、カシ類、シイ類などです。病原菌（*Raffaelea quercivora*）がこれらの樹木の内部で蔓延することで、その樹木は萎れや枯死の被害を受けます。

この病気の伝染（病原菌の移動）には、カシノナガキクイムシという小さい昆虫がかかわっています。カシノナガキクイムシは、ミズナラ、コナラ、カシ類、シイ類などの樹木に飛来し、太い幹にトンネル状の穴を掘って樹木の内部に侵入し、そこで繁殖します。羽化した成虫は、飛び立って別の木に移動し、そこで同じように孔を掘って繁殖します。この移動のときに、カシノナガキクイムシがナラ枯れの病原菌を保持して移動することで、ナラ枯れが別の木に移ります。

ナラ枯れは、このように伝染しますので、その被害の拡大を抑えるために、河内長野でナラ枯れをお見かけの際は公園緑化協会までご一報ください。次のような状況があれば、ナラ枯れが疑われます。

○樹木の種類は、ミズナラ、コナラ、カシ類、シイ類など、ブナ属以外のブナ科。

○8月から9月頃に葉が茶色く変色している。

○太い幹に無数の小さい穴があいている。

○その小さい穴から木屑のようなものが出ており、量の多い場合は幹の下に溜まっている。

なお、昨年に烏帽子形公園で発見されたナラ枯れは樹木 1 本で、これは伐採処分をすることになっています。これまでのところ、公園緑化協会の管理する施設でナラ枯れが確認されているのは、この烏帽子形公園の事例だけですが、河内長野市内では、公園緑化協会以外の施設でもナラ枯れが発生しているようです。

（公園緑化協会　黒川正健）

【参考図書】『ナラ枯れと里山の健康』（黒田慶子編、全国林業改良普及協会、2008 年）

編集後記

あけましておめでとうございます。

当協会が公益財団法人に衣替えして初めての正月を迎えました。平成7年に設立された当協会は、来年で 20 年の大きな節目を迎えることとなり、平成 26 年度は成人になる一歩手前の、未成年としては最後の年度となります。

国や地方自治体の外郭団体は、昨今では、「官僚の天下り先としての受け皿」などの負のイメージが強調され、本来の「専門性」や「スピード感のある柔軟性」などの期待されるところを伸張させる方向での対応を、生みの親である国や大阪府をはじめとする各自治体の方で自粛しているように思えてなりません。

確かに、法人としての自立は当然のこととしても、当協会のように公益目的事業の大半が市からの指定管理等の受託事業で構成されているような法人には、こちら側にも、成人になれば大人としての責任が伴うように、その自覚が求められるのも当然ですが、その存在価値を肯定する限り、生みの親の方でも最期まで面倒をみるようお願いしたいものです。

河内長野市とは、お互いの信頼の上に立って、「市民がうるおいとやすらぎが実感できる緑豊かな環境都市の実現に寄与する」(法人の定款上の事業目的)という共通の目的のために今後ともよりよい関係を保っていきたいものです。

平成 25 年度は、プロパー職員が前年度末に 1 人退職し、その補充が不十分なまま、いろんな事情でここまで来ざるをえませんでした。今年は、前述したように、公益目的法人としての本当の意味でのスタートの年にしなければなりません。いろんな困難が想定されますが、先に光明が見出せる年に是非ともしたいものです。

(公園緑化協会常務理事　山田彰男)

公益財団法人河内長野市公園緑化協会

事務所　〒586-0094 河内長野市小山田町 674 番地の5
☎0721-56-1155／FAX 0721-56-2100
E-mail；contact@kawachinagano-park.or.jp　　HP；http://kawachinagano-park.or.jp/
業務時間　午前9時～午後5時 30 分(土・日・祝日と年末年始を除く)